

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社 ケアテック		
事業所名	グループホーム あかね (1階やすらぎ館)		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目1-7		
自己評価作成日	平成22年11月4日	評価結果市町村受理日	平成22年11月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503437&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活をするうえでの最低ラインの規制はあるが、基本的にはその人がその人らしく生き生きとして生活していくことができるように、規制はせず、個性を生かすケアを心掛けている。入居者は上は90歳代から下は50歳代と年齢層の幅も広く、一見共同生活が困難そうに思えるが、三世帯同居生活のように、昔の日本の家族を思い起こさせるような、人間関係ができており、互いに支えあって生活している。その中でスタッフも家族の一員となり、支援が必要な時には手を差し伸べ、そうでない時には遠くから見守るよう心掛けている。スタッフ自身も明るく元気なので、絶えず笑顔や笑い声があり、はつらつとしている。その影響を受けてか、入居者も明るく元気で活動的な方が多い。また、個々の「できる事」「できない事」を見極め、できる事的能力を維持していけるよう、個別に合わせた支援も心掛けている。また、地域の方や児童、ボランティアの方々が来訪したり、開かれたグループホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線沿いで地下鉄駅より徒歩10分程の住宅街に開設されている木造2階建て2ユニットのグループホームです。地域の人々が参加する健康体操教室との交流や地元を要望で「認知症サポーター養成講座」開催に協力する等認知症への理解や広報に取り組んでいると共に児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加、まちづくりセンターとの協力関係構築等地域交流に積極的に努めています。また、事故防止のために事故防止対策委員会とヒヤリ・ハットに取り組み、データの分析を行い、未だ起きていない事故への対策が実践されています。一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や外気浴、外食や出張出前寿司で気分転換や楽しみごとへの支援や食事の準備や下ごしらえ等一人ひとりの力を活かした取り組みを実践しています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、職員の目に付くあらゆる所に掲示している。その理念を共有して業務に携わるよう努めている。	事業所独自の理念をつくりあげ、見やすい場所に掲示し、朝礼時やミーティングを通じて話し合い共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、総会にも参加している。おまつり等地域の行事に参加したり、避難訓練には地域の方も参加して頂き、地域の方による健康体操教室や地域の児童の来訪も継続しており、良い関係が築けている。	地域の人々の要望で「認知症サポーター養成講座」開催に協力する等認知症への理解や広報に取り組んでいる。また、児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加、まちづくりセンターとの協力関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの依頼により、「認知症キャラバンメイト」である管理者が講師を担い「認知症サポーター養成講座」を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況について報告や話し合いを行い、意見を取り入れてサービス向上に努めている。	運営推進会議は、定期的で開催され防火対策や地域との協力体制について具体的に話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	児童館の館長やまちづくりセンター所長には運営推進委員になって頂いており、意見を頂戴したり協力関係を築けるよう努めている。	市担当者や包括支援センター、児童館館長やまちづくりセンターと日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を全職員が周知できているように、定期的に学ぶ場を設けている。見守りを強化したりセンサーマットや玄関ベルを使用することで安全面にも配慮しながら、身体拘束をしないケアは自然に取り組まれている。	内部研修を通じて、身体拘束廃止を管理者及び職員で認識を共有している。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会の時に職員に資料を配布し、定期的に確認できる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は制度を必要とする利用者はいないが、管理者は研修会で学んでおり、学習会では職員が定期的に学べる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって十分な説明を行い、納得しご理解頂けるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族等が意見等を気兼ねなく表出できるような環境作りを心掛けている。要望はできる限り希望に添えるように努めている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の意見箱を設置している。また、独自の家族アンケートを実施して運営推進会議に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや申し送りなどで職員の意見や提案を聞き入れ、他職員の意見も確認して反映させている。	カンファレンスや申し送りを通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者や職員がやりがいを持って業務に携わり向上心を持って働けるように、勤務状況を考慮し表彰の場を設けたり、資格取得の為に費用の助成を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受けたり資格取得することで、スキルアップできる機会を積極的に提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者会議や研修会等で同業者と交流し情報交換を行うことで、サービスの向上に活かされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを積極的に傾聴し、受容することで信頼関係の構築に努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、できる限り希望に添えるよう工夫をすることで信頼関係の構築に努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話合いの中から、必要としている支援を見極めるように努めている。各種の介護サービスを含めた情報提供を行い、在宅での生活の継続も視野に入れた対応に努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、お互い助け合う関係が保てるよう努めている。共に喜び、悲しみや怒りは本人の気持ちになって聴くという姿勢を忘れず、関係の構築に努めている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や来訪して頂けるご家族だけではなく、面会の少ないご家族とは電話でお話し、関係を築きながら共にご本人を支援している。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪しやすい雰囲気作りに努め、良い関係が継続していけるよう支援している。	地域の夏祭り等の行事参加や地域の健康体操教室参加等、地元の人々との交流を通じて馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。又、難聴で会話に入っていない等で孤立してしまいがちな利用者には職員がフォローし、良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの為、契約が終了した方のご家族から相談があればその都度応じており、関係継続に努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心の内を話しやすい雰囲気作りを心掛け、本人の希望や意向などが常に把握出来るように努めている。言語でのコミュニケーションが困難な場合には、表情やしぐさ・行動などを通して本人の思いを把握するよう努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず、担当ケアマネ等からの情報とご家族や知人からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握ができていよう努めている。入居後は、本人や家族等との会話の中から豊富な情報が得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、職員がバイタル測定と体調確認を行っている。又、日々の見守りの中から、一人ひとりの有する力と要望を把握し、それに合った役割を担ってもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で介護計画に関する話し合いの場を設けており、お互いの意見・情報・アイデア等を出し合い、本人や家族からの要望や意見も取り入れて介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と業務日誌から、全職員が情報を共有できるようになっている。情報を共有し実践している事が、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出やレクリエーション等、本人の要望に出来るだけ応じるよう努めている。又、連携している病院以外への受診も、ご家族やご本人の状況に応じて管理者が通院介助を行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防には救命救急講習・避難訓練で協力を頂いている。地域のボランティアさんや児童会館には、利用者の生活の質向上のための協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に管理者から本人及び家族にお話し、納得の上で連携している医師がかかりつけ医になっている。かかりつけ医とは信頼関係が築けており、24時間体制で適切なアドバイスや医療が受けられている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師・歯科医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が訪問して日常の健康管理や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合でも入居者さんのダメージが最小限に抑えられるように、病院との連携を密にして早期退院に努めている。又、管理者や職員は頻繁にお見舞いに行き、状態をその都度かかりつけ医に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会ある毎にご本人やご家族からの意向を伺ったりお話す機会を設けている。	主治医や看護師の協力の元に「看取り」の研修会が行われている。また、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急講習を受けたり、応急手当普及員の資格を有している管理者が定期的に講習会を開くなど知識を職員に伝達しているが、全職員が応急手当や初期対応が出来るとは言い難い。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防による避難訓練は、日中想定と夜間想定で実施している。地域の方々にも参加して頂き、協力体制を築いている。	地域の人々も参加する昼・夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、火災自動通報が町内会役員に届くよう設定されている。	緊急時の避難訓練や設備の定期点検が実施されていますが、避難経路や誘導方法について、さらに検討することを期待します。尚、スプリンクラーの設置は、来年度計画している。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさと尊厳を大切に考え、自信や張りのある生活をして頂けるような言葉かけや対応に配慮している。	身体拘束廃止や尊厳について、内部研修を通じて職員間で共有し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせて思いや希望を引き出せるよう努めている。又、本人の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定を促しながら納得できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・起床時間は決まっておらず、本人のペースに合わせている。食事時間や形態などは本人の希望や体調を優先させている。本人の希望に添った生活をされており、買物や散歩なども希望があれば支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方は、好きな洋服やアクセサリーでおしゃれをしてもらい、難しい方は本人に似合う色合いの洋服を選び、その人らしいおしゃれが出来るよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理方法や味付け等は極力要望に応え、苦手な献立の時には他のメニューに変えるなど臨機応変に対応している。簡単な調理・下ごしらえ・盛り付け・片付けは、本人の有する力と希望に合わせて職員と一緒にやっている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に調理や下ごしらえ、盛り付けや後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、こまめに不足の状態を把握している。食事量の不足や栄養バランスが悪い時には、経腸栄養剤を利用したり、摂取し易い雑炊にするなどして栄養バランスや脱水の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて、介助・見守り・声かけにて支援している。義歯の洗浄も毎晩行っている。職員介助による口腔ケアは夕食後のみだが、食後には必ずお茶を提供する事で、口腔内の保清に配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度の方でも出来るだけトイレで排泄できるように排泄パターンの把握に努め、時間見て声かけ誘導し、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などで身体を動かす機会を提供し、水分摂取量にも充分考慮しながら便秘防止に努めている。便秘症の方は食物繊維や乳製品を摂って頂くなどして、自然排便出来るよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日でも本人が入りたい時に入浴して頂いている。拒否が見られる場合には無理強いせず、気持ちに向くような声かけ・対応にて、入浴を楽しめる時間に思えるよう工夫している。拒否が続く時には、清拭・足浴・ドライシャンプーを勧めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。本人が希望すれば曜日や時間等が対応可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファやベンチを置いて、好きな時に好きな場所でのんびり寛げる様に工夫している。又、夜間、眠りにつけない方には、暖かい飲み物を提供したり職員の関わりにて、落ち着き安心して入眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを記録ファイルに閉じており、薬の変更や臨時薬がある場合には業務日誌に記載し口頭でも伝え、全職員が把握出来るようにはしているが、日の浅い職員など全職員が把握するには至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割を、無理のないよう配慮しながらお願いしている。余興ボランティアさんの慰問や外出の機会も設け、その事で張り合いやと楽しみのある日々が送れ、気分転換が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添って、職員と一緒に散歩や外気浴、買物に出かけられるよう支援している。外出レクや外食も行っており、屋内だけではなく屋外での楽しみの機会も積極的に提供している。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、出張出勤前寿司の利用や地域のお祭り参加、児童会館の子供たちとの相互訪問等が行われている。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が管理して少額ずつお渡ししている。支払い時にはその方の力に応じて手助けしている。認知症が重度の方でも職員と一緒に買物に行き、社会性を失わないよう配慮している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来るように支援している。手紙でのやり取りは殆どないが職員が代筆した事はある。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には写真や絵を貼ったり等、明るく心地良い環境作りを工夫している。季節折々の小物を飾ったり、季節感も採り入れている。照明を微調整をしたり、温度や湿度にも気配りしている。椅子の裏にシートを貼り付け不快な音を防ぎ、浴室やトイレも常に清潔を心掛け、不快感なく気持ち良く使用できるように配慮している。	リビングや壁には、季節毎の飾りつけや習字等の利用者の作品、行事参加の写真の掲示等が行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室以外の場所でも一人になったり、気の合う同士で談話できるように、ソファやベンチを置いて寛げる場所を設けている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、慣れ親しんだ馴染みの物を持って来て頂けるようご家族にお願いしている。入居後も、家族やペットの写真などを部屋の壁に貼ったり、手作りの小物など本人の気に入った物を自由に飾って頂き、居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居室は、本人や家族と相談しながら、ペットの写真や手作りの小物が飾られたり、使い慣れた家具や寝具、家電製品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアには色分けした名前を貼り、トイレには札を下げて使用中がわかるように工夫している。動きやすい間取りと手すり、自由かつ安全に歩行できるようになっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あかね やすらぎ館

作成日: 平成 22 年 11 月 4 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	34	定期的に講習会を開いたり知識などを職員に伝えてはいるが、全職員が緊急時に対応できるとは言い難い。	全職員が緊急時に落ち着いて対応できるようになる。	心肺蘇生法だけではなく、誤飲時の対応なども含めて習得できるよう取り組んでいく。	6ヶ月
2	47	特に日の浅い職員の場合は、服薬状況を把握できていない為、誤薬の可能性はある。	服薬情報書を確認する習慣をつけ、薬に関する知識は全職員が把握できている。	薬に関する勉強会を定期的に行い、変更の際には副作用を含めた情報を全職員に伝達する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社 ケアテック		
事業所名	グループホーム あかね (2階くつろぎ館)		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目1-7		
自己評価作成日	平成 22年 11月 4日	評価結果市町村受理日	平成22年11月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。	
基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503437&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活をするうえでの最低ラインの規制はあるが、基本的にはその人がその人らしく生き生きとして生活していくことができるように、規制はせず、個性を生かすケアを心掛けている。入居者は上は90歳代から下は50歳代と年齢層の幅も広く、一見共同生活が困難そうに思えるが、三世帯同居生活のように、昔の日本の家族を思い起こさせるような、人間関係ができており、互いに支えあって生活している。その中でスタッフも家族の一員となり、支援が必要な時には手を差し伸べ、そうでない時には遠くから見守るよう心掛けている。スタッフ自身も明るく元気なので、絶えず笑顔や笑い声があり、はつらつとしている。その影響を受けてか、入居者も明るく元気で活動的な方が多い。また、個々の「できる事」「できない事」を見極め、できる事的能力を維持していけるよう、個別に合わせた支援も心掛けている。また、地域の方や児童、ボランティアの方々が来訪したり、開かれたグループホームになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらいの	
		3. 利用者の1/3くらいの	
		4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある	
		3. たまにある	
		4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の行き届く場所に理念を掲示し、認識できるようにしている。日々のケアの中から、身体で感じてケアするように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童会館や図書館などを利用したり、運営推進会議などには地域の方々に参加して頂いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し認知症に関する勉強会を開催したり、当ホームの情報を公開することにより、認知症を理解して頂けるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容やホーム内の個々の活動や現状を報告。また、家族にアンケートを実施し、意見をもらい、それに応じた会議を開催している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当ホームのみで解決できない事柄に関しては、市に直接確認し独断で判断しないよう対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等で事故報告書や具体的な事例を元に勉強会を開催し、理解を深めている。玄関の施錠に関しては夜間のみで、日中は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で具体的な事例を元に勉強会を開催し、何度も話し合い、参考資料を読み込むことにより理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は設けてはいないが、必要性があると感じられた方には積極的にこちらから投げかけ、提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分時間をかけ説明し理解・納得して頂いたうえでやっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはその都度意見や要望を家族に確認している。また、家族に独自のアンケートをし、意見を頂く機会をもうけている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がパイプ役となり代表者や職員の意見や提案を反映させるような組織にはなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	離職者を減らしたいとの意向から、勤務年数に応じて報酬を与えたり、職員の誕生日にはプレゼントを渡したり等の配慮をしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は比較的管理者や正職員のみ研修会に出席させていた傾向があったが、現在は向上心のある職員には正職員・パートの域を超え研修に参加させてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は会議等で同業者と知り合う機会はあるが、職員同士が知り合う機会は殆ど無く、その様な機会も無いのが現状である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を早く築けるよう、明るく振舞い、声かけを多く持ったり、他者とのパイプ役になったりし、少しでも早く安心して生活できるように努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細な事柄でも情報提供し、その都度家族の意向を確認している。また、ホームとしての考えや方針も提示させて頂く事で、関係性を深める努力をしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を事前に確認し、専門職としての立場から必要とあらば、多種多様のサービス等の情報を提供させて頂いている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは共に生活者として対等な立場であると考えており、生活を共にしている一員として、出来る範囲で手伝ってもらったり、役割を担ってもらっている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子がわかるよう、毎月お便りを発送している。また、定期的な面会がある家族には共に支えていくという意識は持てても、そうでない家族に対しては共に支えているという意識が薄れてしまっているのが現状である。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・家族等の面会には心から歓迎し気安く来られるような雰囲気作りを心掛けている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の違いを乗り越えて生活できるように、時には遠くからそっと見守り、時には間に入ったりし、平和な人間関係が成り立つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻繁ではないが、契約終了後も連絡を取りあっている家族はおり、必要時には相談に乗ったり、関係機関を紹介したりなどの支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせ対応しているが、周囲との関係性も考慮しながら、可能な限り支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートから個人の情報を得たり、家族や友人が面会に来た際に生活歴などを確認したりしている。また、聞き取り可能な利用者からは、普段の会話の中から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を確認すると共に、定期的にアセスメントを行い現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や意思確認可能な利用者には事前に意向を確認しておき、それを元にカンファレンスで話し合いを持っている。利用者個々に即したケアプランとなるよう心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも職員間で情報を共有できる記録があり、それを元にカンファレンスで随時検討し、ケアプランに活用したり盛り込んだりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四角四面のケアにとらわれず、あらゆる方向性から物事を考えられるよう、常にカンファレンスで職員同士が意見交換ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある公共図書館や公園などを利用して、特に児童会館の子供達との関わりは利用者自身楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医が往診に来てくれている。専門医の受診が必要な時は、かかりつけ医と家族に相談し、適切な医療が受けられるよう連絡調整している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等があった場合は事前に報告・相談し、専門的な見解からの意見を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に情報提供し、スムーズに治療を受けられるように配慮している。また、入院中は治療状況を確認するため、積極的に連絡し、症状等を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族にアンケートを実施。殆どの回答が「その時になってみなければわからない」との返答であり、現段階ではそれ以上の話し合いは行われていないのが現状である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法として年1回訓練を行ってはいるが、実践力がついていないかは今後の課題と捉える。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民を交え避難訓練を実施している。それ以外にもカンファレンス等で再確認しているが、実践力がついていないかどうかは更に今後の課題と捉えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を考え、その方の自尊心を傷つけないよう、声掛け等には十分気をつけ対応しているが、大変難しいことであると実感している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思っていることを表現できるよう、話を聞くことからは始めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活なので、必要最小限の規制はあるものの、大きな縛りはなく利用者個々が思いのままに生活できるよう、言葉や表情・仕草などから気持ちを受け取り、希望通りに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には個人の自由な服装をして頂いている。その中でも、自己決定できない方や季節感が感じられない方には職員が選び同じ衣類が続かないように配慮している。また、衣類の汚れなどもその都度交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にメニューを決めたり、台所で一緒に調理・盛り付け・配膳・洗いをしたり個々の得意分野を活かし、家庭的な雰囲気の中でケアするように心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量は個々にチェックしており、摂取量が少ない方には本人の好む物を提供したり、時間を変更したりなど本人の習慣や意思を尊重して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりに声掛けし、行ってもらっており、職員も一緒に歯磨きをすることもある。一人で困難な方には職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。また、昼夜でおむつの種類を変更し、可能な限りおむつを使用しないケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使ったり、乳製品を摂取してもらったり、可能な限り飲食物の摂取や運動などで便秘解消に努めているが、最終的には下剤を使用しているのが現状。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に沿って随時対応している。拒否時には無理強いせず、次の日に対応したり、少し時間をおいてから再度声掛けしたりし、入浴したくなるような声掛けにも工夫している。曜日の制約はしておらず、入浴好きな方には毎日入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や外気浴・お手伝いなど、日中の活動を促し生活のリズムを作るとともに、利用者の体調や表情を考慮し昼寝を促したりし、安眠の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更した際は随時報告し職員間で情報を共有できるようにしている。薬の副作用等に関しては全ての職員が理解できているとはいいがたく、今後の課題と考える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事できない事を見極め、その中でも得意な事を、伸ばす支援を行っている。例えば、調理一つにとっても、切る・揚げる・洗うなどその方が得意な事を行ってもらうようにしている。また、計算問題や漢字書き取り・読書・牛乳パック切り等など個々が興味をもって取り組めることを提供し支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬以外の散歩は日常的にされており、近くの児童会館や図書館・スーパーへの外出も適時行っている。時には外食したり、水族館・動物園などのテーマパークに行ったりもしている。その際は家族の協力を得ている。		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて金銭は所持してもらっている。また、一緒に買物に行き職員が見守りの下、支払い行為を行ってもらっている。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の希望は殆どないが、電話に関しては希望に応じて随時対応している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて花や短冊・すずき・クリスマスツリーなどの飾り付けをしたり、お供えを置いたりしている。夏には暑さを軽減するために、蛍光灯の灯りを調節したりなどの工夫を行っている。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて、気の合う者同士で座って談話できるようにしている。また、食堂テーブルが気の合う者同士で過ごせる場所になっている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた家具や食器・仏壇などを持参してもらっている。また、壁には自分で作成した塗り絵なども個性的に貼ったりしている。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札をつけたり、トイレの場所がわかるようにのれんや目印をつけたりなどし、混乱しないように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あかね くつろぎ館

作成日: 平成 22年 11月 4日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	38	可能な限り個々の生活リズムに合わせた対応を心掛けているが、時と場合により職員の都合に合わせてしまったりすることがある。	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせ、毎日楽しく生活してもらいたい。	職員個々が毎日目標を掲げ、それをクリアできるよう、一日仕事をする。	1年
2	36	一人ひとりの自尊心を傷つけないよう人格の尊重とプライバシーの確保には気をつけて対応しているつもりだが、人間の癖・習慣により、突発的に言動として出てしまうことがある。介護の仕事をしていく限り、つきまとう問題であると考え	小さなことにとらわれず、大きな気持ちで介護をしていくことができるようになる。	気持ちの基線を低くし、介護させていただいているという気持ちを仕事前に胸に抱く。	1年
3	2～4	関係を築けている地域住民はいるものの、近隣者とは上手く関係が築けているかどうかは疑問がある。	少しでも多くの近隣者が運営推進会議に参加してくれるようになる。	会議や行事の案内など根気よくしていく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。